

Zマークの梁受け金物採用

青木工務店

プレカット対応で初

青木工務店（神奈川県大和市、青木哲也社長）は、日本住宅・木材技術センターが開発したZマークの梁受け金物（製造IIカナイ）を機械プレカットによる加工で初めて採用した。「断面欠損が少なく、羽子板ボルトの代わりに通し柱や化粧梁で使用した」と青木社長は話している。

今回の住宅は、横浜市内に建設中のもので、全建連の超長期住宅先導的モデル（20年度）として建設され、かつ秋田県の補助で秋田県産材（沓澤製材



Zマークの梁受け金物、意匠性にも優れ化粧梁にも使用

所）をタルキ、柱、造作、和室天井板などの供給も受けている。

プレカットはマルダイで、マルダイがZマークの梁受け金物に対応したプレカットライの改造を実施し、本格的な供給体制を整えた。青木工務店ではZ

Zマークの梁受け金物の使用は2棟目だが、1棟目は手加工で対応していた、マルダイでプレカット加工体制を整えたことで、今後普及に弾みがつきそうだ。

全建連の先導的モデル事業の住宅でオール国産材仕様の住宅とし

て建設、梁にはアカ松（地松）を使用している。瓦はガイドライン工法を採用するなど、地震に強い家づくりに取り組んでいる。

「国産材をふんだんに使った住宅を建てたいと思っていた。私の想いと社長の熱い想いがぴったりに合った」（施主）としている。「国産材を横架材で使用するためには性能表示に対応したスパン表が必要で、全建連でもスパン表の作成の要望を出している」と青木社長。